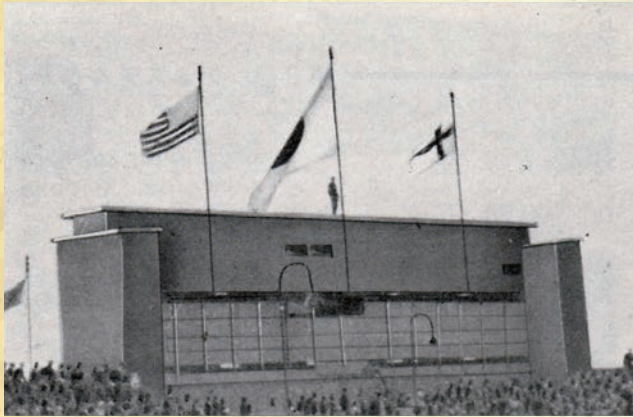




※※※ アムステルダム大会で日本人初の金メダル獲得

1928年にオランダ・アムステルダムで行われたオリンピックに、走高跳・走幅跳・三段跳で出場。走高跳・走幅跳は予選落ちしますが、「全力を尽くすのみ」と思い直して臨んだ三段跳で15m21cmを跳び優勝。日本人として初めて金メダルを獲得します。日本の優勝は予想外だったのか、国旗掲揚係が手間取っているのをみかねて、盟友の南部忠平選手がウイニングラン用の特大の国旗を指し出したことで、両脇のものと同くらべ特大な日章旗が掲げられました。





スパイク

26歳で三段跳世界記録を達成した際に使用したスパイク。(三段跳15m58cm)



金メダル(レプリカ)

アムステルダム大会で日本が初めて獲得した金メダル(レプリカ)。(実物は、秩父宮記念スポーツ博物館寄託資料)



ディプロマ

23歳で出場し、三段跳で優勝して獲得したアムステルダム大会のディプロマ(賞状)。



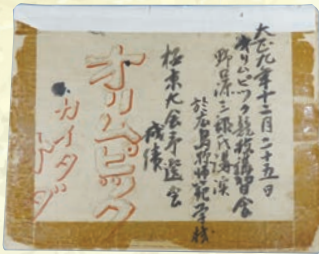
トランク

23歳で出場したアムステルダム大会に持参したトランク。



1964東京オリンピック監督章

59歳の時に開催された1964東京オリンピックで、陸上日本代表総監督を務めた時の監督章。



「原点」ノート

15歳の時に参加した陸上講習会で学んだことをまとめたノート。この講演会をきっかけに本格的に陸上競技を始める。



※※※ 山野を疾駆した少年時代

織田幹雄は、6人兄弟の3番目(三男・写真上段右端)として、広島県海田市町に生まれました。幼少期は小柄でしたが、近所の子供たちと山野を駆けまわる元気な男の子でした。成績も優秀。ただし、人一倍の恥ずかしがりやでした。家の手伝いを積極的にこなすうちに、「どうすればうまく、早く片付けられるか」と創意工夫をする力を身につけ、これが後の陸上競技にも活かされたと振り返っています。



年		項目
一九〇五	年齢	
0	3月30日 海田市町(現海田町福荷町)で生まれる	
六	鼓浦尋常高等小学校(現海田小学校)入学	
一三	広島県立広島中学校(現県立広島国泰寺高等学校)入学	
一五	オリンピック代表野口源三郎選手の講習会に参加したことをきっかけに本格的に陸上競技をはじめ	
一七	全国中等学校大会に参加 走高跳・走幅跳・優勝、三段跳・2位	
一八	広島高等師範学校第二臨時教員養成所英語科(後の広島大学)入学	
一九	第6回極東選手権大会にて走幅跳・三段跳で極東新記録達成 第8回オリンピック・パリ大会出場 三段跳で日本陸上史上初の入賞(6位)	
二〇	第一早稲田高等学院入学 「ホップ・ステップ・アンド・ジャンプ」を「三段跳」と命名	
二三	第9回オリンピック・アムステルダム大会出場 日本人初の金メダル獲得 三段跳15m21cm	
二六	大阪朝日新聞社入社 第1回一般対学生対抗競技で生涯唯一の世界新記録を達成 三段跳15m58cm	
二七	第10回オリンピック・ロサンゼルス大会出場 大会後引退	
四〇	日本陸上競技連盟常務理事	
四三	日本オリンピック委員会委員	
五三	国立競技場こけら落とし大会(第3回アジア競技大会)最終聖火ランナー	
五九	第18回オリンピック・東京大会 陸上日本代表総監督	
六〇	早稲田大学教授	
六二	第1回織田賞陸上大会(現織田幹雄記念国際陸上競技大会)開催	
六三	国際陸上競技連盟評議員(アジア代表)	
七一	IOCオリンピック・オード(功労賞)受賞	
七五	日本マスターズ陸上競技連合会長	
七九	渋谷区名誉区民	
八〇	東京都名誉都民	
八一	海田町名誉町民	
八三	文化功労者	
八四	広島県名誉県民	
八八	広島市名誉市民	
九〇	日本陸上競技連盟名誉会長	
九五	織田幹雄スポーツ振興会(海田町)設立	
九八	12月2日逝去	

織田幹雄略年表

